

# 平成30年度学校自己評価システムシート（県立久喜特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒の社会的自立の力を育む学校
--------	-------------------

重点目標	1 教育支援プランに基づき児童生徒が達成感を得られる授業づくりを進める。 2 共生社会の実現に向け、教職員の専門性を生かした組織的な地域支援や交流及び共同学習を進める。 3 児童生徒が安全で安心な学校生活を送れる環境づくりを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		実 施 日 平 成 3 1 年 2 月 5 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>新学習指導要領の理解をさらに深め、教育課程を編成する必要がある。また、教育支援プランに基づく指導支援が進みつつあるが、より一層の充実を図るため、教職員の専門性の向上を図り、児童生徒の障害特性に配慮した指導を進める必要がある。</p>	児童生徒が達成感を持てる授業づくりを行う。	<p>【達成感を持てる授業づくり】</p> <p>①教育支援プラン作成について、説明会を年度当初に実施する。            ②外部講師を招いての全体研修会を実施する。            ③視覚的支援やICT等を活用する。            ④新学習指導要領理解のための説明会を実施する。</p>	<p>【達成感を持てる授業づくり】</p> <p>①児童生徒に合わせた教育支援プランを作成マニュアルに沿って作成し、適切に評価できたか。            ②研修会を効果的に実施できたか。            ③児童生徒に合わせた支援を行ったか。            ④新学習指導要領の説明会を複数回実施できたか。</p>	<p>【児童生徒の理解を促す支援が工夫され、学習活動の充実が進みつつある】</p> <p>・年度当初に教育支援プラン作成マニュアルに沿って作成上の留意点等について説明会を実施した。共通理解を持って作成し、支援プランに基づき指導支援を行うことができた。保護者アンケートでは9割以上の良い評価を得たが、不十分であるとの意見も見られた。            ・全体研修会や各学部の研修会を通して、児童生徒の理解や適切な支援の仕方が工夫されつつある。ICTの活用も見られるようになった。            ・新学習指導要領の説明会を3回実施し、改定内容の理解が深まった。</p>	B	<p>・来年度からの新学習指導要領実施に伴い、各学部において教育課程や指導内容を検討していく必要がある。また、教育支援プランに基づく指導支援を効果的に行うために、児童生徒一人一人のニーズに即したものとなるよう、保護者との意見交換を十分に行うとともに、評価の在り方について検討を進める必要がある。また、児童生徒の意欲や理解を促すため、ICTを効果的に利用するための研修を引き続き行っていく必要がある。</p>	<p>・一人一人のニーズに合った指導支援を進めていただきたい。            ・進路指導にあたっては、生徒の本来の姿を理解していただくことが大切であり、産業現場等における実習を大切にしてほしい。            ・福祉事業所の空きがなくなることが心配であり、中学部段階での実習ができると良い。            ・タブレットを家庭で使い始め、塗り絵やひらがな練習などアプリを活用することで、興味を持って取り組めるようになり、学校でも上手に取り入れて、児童生徒が意欲をもって学習に取り組めるようにすると良い。</p>
2	<p>支援籍学習は支援籍校との連携により効果的に実施されている。また、学校間交流も活動内容を工夫し実施されている。地域支援においては、特別支援教育コーディネーターが他機関からの要請に応じる個で担うセンター的機能となっており、組織として担う必要がある。 ボランティア養成については、引き続き積極的に進めるため、情報発信が必要になっている。</p>	組織的に地域支援ができる体制づくりを行う。	<p>【組織的地域支援体制づくり】</p> <p>①企画委員会が中心となり、各分掌委員会が担える地域支援内容を整理する。【8月】            ②①を基に、各分掌・委員会が担える内容とコーディネーターの役割を明確にした地域支援体制図を作成する。【11月】            ③組織的支援体制について教職員の理解を得る。【1月】</p>	<p>【組織的地域支援体制づくり】</p> <p>①各分掌委員会から支援内容を集約整理できたか。            ②地域支援体制図を作成し、企画委員会で検討ができたか。            ③職員会議での提案と周知を行ったか。</p>	<p>【各学部や分掌、コーディネーターによる交流活動や地域支援が適切に展開できた。】</p> <p>・各学部では、学校間交流を工夫して実施し、お互いの理解を深めることができた。地域連携部が中心となりボランティア養成をはじめ地域資源の活用を進め本校への理解が進んだ。特別支援教育コーディネーター研修会を開催し、地域のコーディネーターの専門性を高める一助となった。また、文化祭では民生児童委員や近隣の大学生のボランティアを受け入れ、児童生徒の学習活動への理解を深める機会とした。            ・コーディネーターは、昨年同様地域の学校からの相談対応や教職員研修の講師を行った。            ・地域支援体制図の作成については、今後提案検討する。</p>	A	<p>・各学部や分掌がそれぞれに担っている業務を確実に取り組むことで、本校としてのセンター的機能を発揮し、地域からの信頼を得ている状況にある。引き続きセンター的機能を担うとともに、児童生徒の活動のみならず、教材教具の紹介や教育情報などの情報発信を行っていく必要がある。</p>	<p>・コーディネーターの先生に負担が出てしまうが、引き続き、地域に信頼される学校としてセンター的機能を十分に発揮してほしい。また、地域や保護者にどのような活動を行っているのかを情報発信できると良い。</p>
3	<p>火災や地震を想定した避難訓練を実施し、避難が円滑にできる状況であり、引き渡し訓練は、保護者の協力を得て今年度実施予定である。 また、児童生徒は、思いもよらぬ怪我をしてしまうことがあり、ヒヤリハットを収集し、教職員で共有し未然防止を図る必要がある。併せて、安全に遊具を使用するためその配置や新規購入について検討を進める必要がある。</p>	災害時対応への備えを進めるとともに、日々の児童生徒の怪我や事故を防止する。	<p>【災害時対応】</p> <p>①引き渡し訓練を9月に実施する。            ②防災委員会は、実施後の反省を基に課題を整理し、対応策を講じる。            【ヒヤリハットの収集と共有】            ①保健部、指導部が中心となりヒヤリハットを収集し、共有する手順をつくる。            【遊具の安全利用に向けて】            ①企画委員会が中心となり、遊具の配置や新規購入に向けて、各学部の意見を集約し、構想を策定する。</p>	<p>【災害時対応】</p> <p>①引き渡し訓練を円滑に実施できたか。            ②成果と課題を明らかにし、課題への対応策を講じ周知できたか。            【ヒヤリハットの収集と共有】            ①ヒヤリハットを収集共有できたか。            【遊具の安全利用に向けて】            ①遊具設置等の将来構想を策定することができたか。</p>	<p>【災害時対応が進み、日々の事故防止への意識が高まりつつある。】</p> <p>・引き渡し訓練を9月に実施した。引き渡しの方法等を確認することができた。また、本年度の実施により課題が明らかになった。            ・ヒヤリハットの収集については、教職員が気付いたことを気軽に伝えられる方法を検討していく。            ・遊具設置構想については、小学部の意向を基に案を作成し検討を進めている。</p>	B	<p>・引き渡し訓練実施後の反省から、保護者のより多くの参加、日頃からの敷地内の安全確認、避難場所開設準備の訓練、災害備品の位置確認、洪水等の様々な状況を想定した訓練の必要性が課題として挙げられた。これらへの対応が必要である。また、引き渡し訓練をはじめとした、防災対応を継続して実施するため新たな組織を設ける必要がある。            ・安全な遊具を整えるため、将来構想に基づき予算要求し、早期の移設や新規設置が必要である。</p>	<p>・毎月の安全点検に加え、教職員全員で環境を整備する取り組みがあると良い。            ・引き渡し訓練については、小1、小4、中1、高1の保護者が全員参加するようにするなど、必ず保護者が参加する工夫をしてほしい。また、災害時に必ず保護者が行うことを毎年文書を配付して周知する必要がある。</p>